

# 特 別 寄 稿

## 「医誌」の発刊に想う

前副院長 高 橋 庸 二

この度の名寄市立総合病院医誌の発刊は当院にとって画期的な事であり、関係者各位に心から敬意を表します。

顧みますと、三品政朝第5代院長の時代に、名寄市立総合病院の業績を後世に残すという目的もあって、当時の上川郡北部医師会長であった初代院長の佐藤眞幸先生と相談し、昭和39年に第1巻第1号、第2号が、続いて昭和41年に第2巻が「上川北部医師会雑誌」として発刊されました。

内容はすべて臨床医学に関するものであり、特に第2巻は名寄、士別両市立病院の医師達を中心となって医師会の研修、講演会で発表されたものが2年分掲載されています。

さて、三品院長は第2巻の編集後記で次のように記しています。「(前略)少なくとも地方医師会に於ては会員の相互理解と交友が、日本医師会をもっと正常な発展をさせて行く一里塚であり、且つ又その原動力であることを強調したい。

その様な意味合いからも此の小冊子が学問の場としてのみでなく、会員相互間の意志を疎通させる場として広く利用されることを望み、次回発刊の内容に何等かの意味で其を盛って行きたいと企図している。」。

しかし、その後再び三品院長の意図は継承されることなく終刊となりました。

今になってみると、三品院長の後輩である我々が如何に未熟で不勉強であったかと反省させられ忸怩たるものがありますが、当時の雰囲気は沈滞していて、中に全く関心がなく、非協力的な者がいなかったか、と問われれば必ずしも否定はできません。

何はともあれ、今回の「医誌」発刊には並々ならぬ感慨が感じられて頼もしく、年を追う毎に、更に充実した冊子になることを祈念してやみません。

くれぐれも前車の轍を踏むことなく、病院と「医誌」が両々相俟って発展されることを願っております。

—前副院長，小児科，昭和32.12～平成4.6—